



※観光圏:国の観光圏整備法に基づいて認定されるもので、複数の観光地(市町村)が連携した2泊3日以上滞在可能な圏域のこと。現在、全国で45地域が認定されていて、湯河原町は、神奈川県西部地域の2市8町(小田原市、南足柄市、中井町、大井町、松田町、山北町、開成町、箱根町、真鶴町、湯河原町)と静岡県熱海市でつくる「箱根・湯河原・熱海・あしがら観光圏」を形成している。

富田湯河原町長(以下「富田」) 小田原市と熱海市と湯河原町の梅園を回遊する「梅の郷めぐりスタンプラリー」ということで、神奈川県にも後押しをしていただいて急遽始まったわけですが、期間中の約20日間に、3か所の梅園すべてを巡った719人に記念品が贈られました。

3か所を巡っていただいた方がこんなにもいたということで、成果があったと思います。中には自転車で移動した方もいたと聞いて驚いています。

このスタンプラリーでは、応募者の中から抽選で、特別賞として4人の方に宿泊券などが当



『梅の郷めぐりスタンプラリー』

たるのですが、当選者が全員女性の方という結果を見て、ここにターゲットがあるのかなと感じました。3か所のそれぞれ趣の異なった梅園という点が、線につながる第一歩だったのかなという気がしますし、これからもこういったつながりを持つことで、将来、来園者が共通で使える券などの発行につなげていきたいと思っています。

齊藤 湯河原と熱海は、観光以外にも消防や污水处理、そして、買い物などの生活の面で連携をさせていただいております。

富田 生活に密着した部分の広域行政は、長い歴史もありますし、これからも続いていくことと思います。

流動人口のしっかりした数字は把握できていませんが、泉地区の方や伊豆山地区の方、さらには市街の方も車で近いということで、市民レベルでの行き来が普通に行われていることと思います。これは湯河原にとっては本当にありがたいことです。

湯河原の個人店舗は統計データを見ても近年減っています。真鶴も減っているんですね。けれども、国道135号沿いの商業地域が整備されたこともあってか、湯河原での消費量は、店舗数の落ち込みほど落ちているはずではないんです。

おそらく、真鶴と熱海にお住まいの方が、湯河原で消費をいただいているからだと思います。そういった部分で、市長のおっしゃるとおり、生活面でのつながりは強いと思います。

山口 仕事で近くに来ると、必ず国道135号沿いの商業地域を見ていきますが、平日でもかなりの車が止まっていて、いつも混んでいるようです。大型の店舗が増えて、あそこが消費の中心になっているのは間違いないですね。

齊藤 箱根と湯河原は神奈川県、熱海は静岡県ですが、市町の境界や県境というのは、市民、町民の生活にはあまり関係がないと思います。